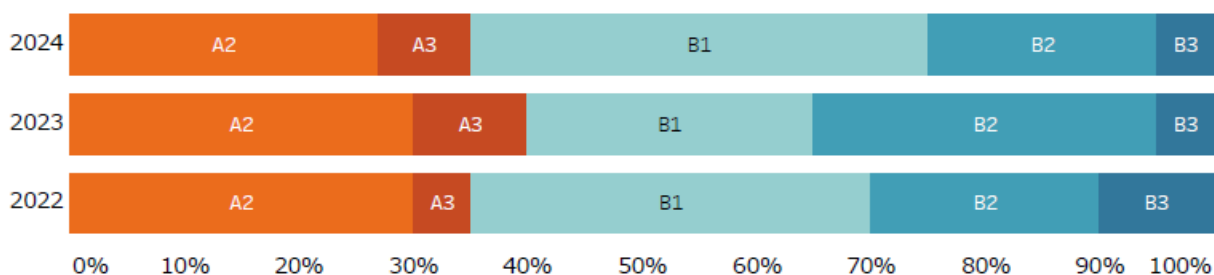


2024年 慶應義塾中等部 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。知識・技術の正確な再現力が求められる思考コードA～B1レベルの問題が7割程を占めています。テキストなどで見かける典型的な問題が並ぶため、確実に得点を重ねていく必要があります。また、大設問も頻出分野があるため、対策は立てやすいと言えます。例年、大問6は調べる問題となっていますが、過不足なく、すべての場合を正確に調べる力が求められるため、完答のハードルは高いと言えます。最上位生が集まる入試となりますが、高難度の問題が並ぶわけではないため、高得点勝負となります。基本的な問題を確実に得点して、B2レベルの問題をどれだけ取れたかで差がつくと思います。基本的な問題を素早く正確に処理する力は欠かせません。



大問1、大問2は例年出題される計算、一行題でした。どの問題も基本的な内容です。計算ミスや問題の誤読に注意し、ていねいに処理をして確実に得点したいです。大問3も例年通り図形の一行題でした。(3)は、色のついた部分を移動して半径6cm、中心角30度の扇形として考えます。中等部に限らず、今年は「30度の三角形（正方形の半分）」を利用する入試問題が多かったような印象を受けました。「30度、60度、75度、150度」など、特徴的な角度に注目することが大切です。(4)も例年出題される回転体の表面積でした。類題に触れたことのある受験生も多いと思います。ここも確実に得点しておきたいです。

大問4は、分数列の規則性でした。分母には2、4、8、16、32、64…、分子には奇数が並びます。焦らずていねいに調べて得点したいです。(2)は「50番目から60番目までの分数の和」となります。(1)を利用して60番目までを調べます。このとき、(基本的なことではありますが)分数の個数が10個ではなく、11個となる点に注意します。大問5は、中等部で頻出の水そうグラフでした。ここで差がついたと思います。「200Lになると6時間続けて水が補給」されますが、その間も排水されている点に注意します。(1)、(2)はグラフをていねいに読み取っていくことで答えを導き出すことができます。(3)は、グラフに追記して水量変化の様子をとらえます。大問6も中等部で頻出の調べる問題でした。白色のタイルと黒色のタイルをはり合わせて図形をつくります。(1)は、いわゆる「落ち物ゲーム」のテトリスで登場する7種類のブロックでした。知っていたら早かったと思います。(2)は、(1)を利用して調べていきますが、かなり手間がかかります。大問6(2)に時間をかけるよりは、大問5までを確実に得点できるように見直す方が賢明かもしれません。

基本的な問題が多いため、1問のミスが大きな差を生むこととなります。あくまでも予想ですが、大問4(2)、大問5(3)、大問6(2)を落としたとしても、8割程度には達することができると思います。